

令和8年度肝属川学識者懇談会 議事概要

○開催日時：令和8年度 9月 8日（火）15：00～16：00

○開催場所：サンエールかごしま 4階 中研修室3

○主な意見等

【資料1：議事次第等】

- ・鹿児島大学齋田准教授が委員長に選出された

【資料2：肝属川直轄河川改修事業の再評価について：主な意見】

（酒匂委員）

整備開始当初から現在までで流下能力が向上していて既に便益がでているが、気候変動を考慮することにより、洪水の発生頻度が増えているため、その分さらに便益が増えた、ということか。

（事務局）

その通りである。

.....

（石塚委員）

B/Cが1.0を超えているので問題になることはないが、社会的割引率はずっと4%が使われているが、長期金利を考慮すれば本来は1%や2%でやるべきだったと思われる。最近の動向をみると、4%のままでいいのかという議論があってもよい。今後も4%のままで評価していくのか。

（事務局）

全国統一でマニュアルに従い4%を基本に評価し、近年は1%や2%ではどうかというの
も示すようになっている。現時点で4%を変える（上げていく）という議論は聞いていない
が、将来的にはあり得る話である。

.....

（山内委員）

B/Cで計測できない効果ということで、内水（上下水道）被害軽減への効果はないか。
便益を評価する指標になり得ないか。

（事務局）

外水が低下することによる内水排除の効果は期待されるが、鹿屋市の地形的な特徴もあり、肝属川では便益を評価する上での指標には難しいと考えている。

.....

(石塚委員)

河川整備と合わせてかわまちづくりを行った場合、金銭的な効果は算定できないものの、その波及効果のようなものは、便益として見込まれないのか。また、今後見込んで行こうという動きはないのか。

(事務局)

現時点では見込まれていない。事業評価は事業毎に行う事になっており、かわまちづくりは環境整備事業において別途 CVM にて評価しており、河川改修事業とは便益の積み上げ方が異なる。

B/C で表せない効果というの整理するようにはなっているが、今後はきちんと便益として評価していくのはあるかもしれないと考えている。

.....
(齋田委員長)

B/C の感度分析について、工期を短くしたらコストが上がるのか？コストをかけて工期を圧縮するという考え方か。

(事務局)

工期を短くすると、現在価値化したときにコストが高くなる。お金をかけて短くしているということになる。

.....
(総括：齋田委員長)

審議の結果、肝属川直轄河川改修事業の対応方針（案）どおり、「引き続き事業を継続」で了承する。

以上